

日本武道協議会の優良団体として表彰を受ける県空手道連盟の
飛鳥宗一郎会長（中央右）
＝東京・日本武道館



県空手道連盟（飛鳥宗一郎会長）が、日本武道館と武道九団
体で構成する日本武道協議会（松永光会長）の二〇〇七年武
道優良団体に選ばれた。東北の空手道団体では初の栄誉。表彰
式が十四日、東京都の日本武道館で行われた。

日本武道協会の優良団体表彰 県空手道連盟が受賞

東北初

選手強化、底辺拡大に尽力

同連盟は、一九六五昭和四十一年に発足。当時は八団体だった会員も、現在では四十八団体、約千八百人を数える。空手道競技では日本体育協会に唯一加盟する全日本空手道連盟の傘下団体として、団体をはじめ各種大会に数多くの選手を送り、優秀な成績を収めてきた。

九二年の「べにはな」団体では、空手道競技で団体初となる、天皇・皇后両陛下の観覧を受けたほか、五種目優勝を含む新記録得点で総合優勝を達成。競技運営の成功と合わせ主催地会場として大きな成果を収めた。

さらに、北海道から関東までの小中学生を対象にした「樹氷杯ジュニア選手権」をおとしから開催し、選手の強化や底辺拡大に尽力。今年三月までの五年間、飛鳥会長が全日本空手道連盟東北

地区協議会の議長としてリーダーシップを発揮してきたことなどの功績も認められ、今回の受賞につながった。

毎年、各武道競技から一団体のみが選ばれる優良団体表彰は、今回で二十七回目。県連は東北の団体では初の受賞となる。表彰式には、飛鳥県連会長が出席し、表彰状を受け取った。

飛鳥会長は「これまで役員・会員が一丸となり競技の普及と組織の充実・強化に取り組んできた結果の受賞であり大変な励みになる。今後も、空手道を通じて青少年の健全育成と社会に貢献できる人材の育成に努めていきたい」と話している。

2008年1月15日

山形新聞朝刊より